桂坂

19960706
[9602]
総32号

発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

桂坂・自主防災会の「リーダー研修会」開かる

桂坂自治連合会 事務局

六月二日（日）。午前八時、貸切バスで南区にある市民防災センターに向かいました。

当日は、休日の朝早くにもかかわらず、各自治会から多数の参加を頂き、総勢六〇余名の団体となり、なごやかなバスの小旅行となりました。

センターでは受講概要の説明を防災センターの係の方にして頂き、同行して下さった洛西消防出張所の消防指令 能勢正史様のご挨拶を皮切りに参加者のそれぞれが三つの班に分かれて実地体験をしました。

■ 地震体験コーナー

震度四～七程度の地震を体験し、地震発生時の行動の困難さを学びました。

小さい台所に四人くらいずつ入り、ガス、湯沸かし器、ストーブ等の止栓、入口ドアの開放、その後、テーブルの下に避難します。入る前から、火元など場所の確認ができているにもかかわらず、揺れ始めると、各自があわててしまい、震度七のゆれの時には立っておられず、中にはテーブルの下でこける人もありました。

実際、予期せぬ時に起こる地震には消火もままならないだろうと感じ、同時に震度七の怖さも体験できました。

■ 強風体験コーナー

風速〇～三〇メートルの強風を体験しました。二～三人ひと組で小さい部屋に入ったのですが、風速三〇メートルでは手すりにつかまっていないと立っていられないくらいでした。傘もさせない状態で強風の怖さを改めて体験しました。

■ 消火訓練コーナー

模擬火災をモニターで再生し、消火器などの使い方を学びます。

一～二人でモニターに映る火事に向かって、消火液（訓練の場合は水を使用）で、消火します。火の元になるところに命中させるようにするのですが、なかなかうまく消火できません。消火効果によりモニターの火災が変化するので大変勉強になりました。

■ 暮らしの安全コーナー

高齢者などの身体機能を疑似体験し、見落としがちな家庭の中の危険性を考えます。

それぞれが足およびあごや背中に防具をつけ、年老いた人たちの姿勢に合わせて、階段の上り下りの困難さ、風呂、トイレの使用の不便さ、ちょっとした床の段差の危険性を体験しました。モニターで、耳が遠くなった時の音の聞こえ方の変化も体験しました。

体験者の中には、自宅に高齢者を抱えておられる方もおられ、「これでは、家を直さなあかんなあ」と話しておられました。

■ 避難体験コーナー

室内に充満する煙や、熱気の中で普段体験できない避難行動を体験しました。

真っ暗な室内に入り、白煙の中を口を押さえ、姿勢を低くし、誘導灯を頼りに非常口に向かって三つほどの部屋を脱出します。実際よりも煙は少ないにもかかわらず、初めての部屋の作り、および暗さに動揺を覚えました。

ホテルや旅館に宿泊する時は、必ず避難通路や非常口の下調べをすることが絶対に必要だと感じました。

■ 映像体験コーナー

昨年の阪神大震災の時の映像を見て改めて被害の大きさを感じました。それから地域での訓練活動の様子なども見せて頂きました。

以上のコーナーを三時間余り体験し、それぞれに有意義な時間を過ごしましたが、皆さんも何かの機会にご家族で体験なさってはいかがでしょうか。

今年で三年目を迎えます「桂坂自主防災会」ですが参加された方は、各自主防災部長（自治会の会長）を中心に今日の日の体験を活かし、いざという時のリーダーとして活躍して頂けるものと期待しております。

自主防災会ニュース

各自治会館に救出用「七つ道具」

自治連合会の五月の定例役員会において、各自治会に置かれている「自主防災部」に、救出用の「七つ道具」を常備することが決まり、六月一日の定例役員会の席にその道具が業者から納入されました。

「七つ道具」とは、のこ、金のこ、つるはし、斧、バール（金てこ）、ワイヤカッター、ロープ、ハンマー（大と小）の八種九点です。

早速、それぞれの自治会館に備えられました。

桂坂「みどり会」の開催

去る五月十九日、ふれあい会館の研修室において、「みどり会」が五十四名の出席のもと開催されました。

「みどり会」は、菊池連合会長の発意で、桂坂学区内の各種団体の正副会長、小・中・養護学校ふれあいゾーン等の方々に呼びかけ、連合会の役員とともに一堂に会し、桂坂を更に住みよい街にするために話し合う、懇談の場として設けられたもので、早くも今年で三回目となりました。

菊池会長の「自由な雰囲気の桂坂」「快適・利便な桂坂」「すきのない桂坂」のテーマで始まった会議は「ごみの不法投棄」、「夜間、外部からの車やオートバイの乗り入れ」、「横断歩道での交通ルール」等について種々協議がなされました。

また、「桂坂に児童館の早期設立を」とのことから、今年度も引き続き行政機関へ要望していくことになり、最後に、来年度の学区内の主要行事日程を確認し、二時間半の「みどり会」は、盛会のうちに閉会となりました。

連合会事務局 基太村

みどり会に参加して

桂坂地域女性会 会長 山田 まゆみ

みどり会は、年に一度ではありますが、自治連合会、各種団体、小中学校、近隣施設の役員・先生方が顔を合わせ、日頃の活動や問題点、桂坂の将来などについて他面的に話し合える貴重な場ではないかと思います。

当日、出席者の皆様とお話させていただく中から、たくさんのことを学ばせていただきました。

その一つは、皆様の桂坂への熱い思いです。地域を愛する心が、お忙しい中での、それぞれの活動の原点ではないかと思いました。

二つ目は、桂坂は、まだまだこれからの街であり、取り組んでいかねばならない多くの問題があるということです。と同時に住環境や教育など女性であるからこそ身近なものとして考えていかねばならない問題にも気づかされました。

私ども地域女性会は、本年四月に西京区地域女性連合会に加入したばかりの未熟な組織です。けれども、私たちの将来、子どもたちの未来と長い目で地域の発展を考えます時、地域の中だけ、自分たちの仲間だけでなく、さらに多くの方々と手を繋いで行くことが必要ではないかと思います。

そして、私どもの活動の輪に一人でも多くの方が参加して下さることを願って会場を後にしました。

「ごみ減量」のモデル学区となって

自治連合会事務局 谷口 和子

皆様は、ここ桂坂学区が京都市内では東山区の今熊野と並び「ごみ減量化モデル学区」になっていることをご存知でしょうか。

去る六月一日に、けやき自治会館で行われました定例委員会（各自治会長さん全員が出席されます会合）では、京都市清掃局ごみ減量推進課の林課長様がお越しになり、ごみ減量化モデル学区としての取り組みについて詳しいご説明とご協力の呼びかけがございました。今回は地域女性会の幹部の方々にもご出席いただき、貴重なご意見も出されました。

すでに各戸に配布されました京都市からの広報に基づきまして飲料用と食品用の空缶と瓶を徹底分別していただくことが必要です。化粧品の瓶でも一部リサイクルできないメーカーもあるそうです。

最近では、家庭の生ごみ等を「コンポスト」「EMぼかし」で堆肥化させる方もふえてきました。又、マンションなど集合住宅にお住いの方々には京都市で農園を借りて堆肥化させる試みも進めているそうです。（因に、この近辺では大原野に農園があります）京都市では生ごみを土中に埋めるのではなく、乾燥させていく方式を農林部門とも相談中であるそうです。

このように行政あげてのゴミ減量推進運動が行われている中、私たちの住む桂坂学区がそのモデル学区となっている以上、皆様にも瓶・缶の分別収集、生ごみの堆肥化等には積極的に取り組んでいただきたいと、会議に出席した一員として痛感致しました。

分別収集された瓶・缶類は、伏見区の横大路学園へ運ばれ、選別ラインで五種類に分けられます。現在でも一部、手作業になっているラインもあるそうで、そのために作業中に怪我をされる職員も多々あるそうです。だからこそ、ごみを出す側も思いやりのあるごみの出し方、マナーが要求されると思います。

又、ごみを出す時のビニール袋の色は、安全性、プライバシーの両面から考えて、薄いブルーの色が最適だそうです。最近は、カラスによるごみの散乱の被害も多く、さくら自治会さんのように、ネットをかける工夫も必要でしょう。

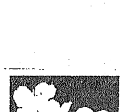
京都市全域で瓶・缶の分別収集率は五割程度で、生ごみと混ぜて捨ててしまう方が多いのが現状です。

ごみ減量への取り組みは資源を大切にする考え方に通じます。「人にやさしい桂坂」――だからこそ、学区全体で積極的に取り組む姿勢が大切でしょう。どうぞ皆様ひとりひとりのご協力とご理解を、お願いいたします。

高齢者の生きがい

桂坂・山の手倶楽部
会長　立野和之

　当「桂坂山の手倶楽部」も発足して五年目に入りました。会員数も一五〇名から二二〇名と増え続けている現状です。
　ご案内のように、桂坂地域の特性である、各世帯は新しい方々の集まりで、道に出会っても言葉一つかけるような状態でなく、まして高齢者にとっては淋しい日々であったと考えられます。
　このような時、自治連で老人クラブの創設が発案、準備委員会がもたれ、平成四年四月、その名も「桂坂山の手倶楽部」として発足しました。その折、会員による「新しい出会い」を大切にしましょうと、強く要望しました。お蔭で今では道は勿論、バスの中でも楽しいふれ合いが見られ、所期の目的が実りつつあると関係者一同、心より喜んでおります。
　私たち高齢者は「生きがい」を持ち続けることにあることからして、次のようなサークル活動により、皆さんが楽しんでいます。
　旅行、史跡巡り、園芸、囲碁・将棋、写真、書道、一筆画、コーラス、歩こう会、ゲートボール、グランド・ゴルフ、手編み、女性部等があり、それぞれの部門により一週間のうち、四日間、三日間、二日間、一日、又、月二回、月一回と回数は異なりますが、会員の中には、一人で四～五つのサークルに加入して楽しんでいる方もおられます。
　その反面、指導される先生方は、ボランティア精神で大変ご苦労されていますことを、この場を借りまして心から敬意を表する次第です。
　地域の活動としては、九月の「いきいきサタデー」――小学生とのふれあいに昔の遊びや手作りなどを子供たちと一緒に楽しんでもらいます。又、一〇月には書道、一筆画、生花、手編み、工芸等の「趣味の作品展」を開催して、日頃から楽しんでいる趣味の成果を発表し、地域の皆様に観賞していただくよう今から頑張っています。
　なお、「山の手倶楽部」の会則には「おおむね六〇歳以上の者で、本会の趣旨に賛同し、入会を申し出た者」とありますので、六〇歳以下でも加入できます。
　ご加入をお待ちして居ります。



'96サマーキャンプ

桂少年補導委員会　桂坂支部

　恒例の少年補導のサマーキャンプは、次の日程で予定されています。申込みをしなかった人で、参加を希望される方は、各自治会の少年補導委員におたずね下さい。

日時と場所
96年8月
3日(土)～4日(日)
京都府城陽市
友愛の丘キャンプ場

　このキャンプ場は学研都市にも近く、京都だけでなく、大阪・奈良から出かける人も多く、人気のあるキャンプ場です。
　テントサイトは一〇ケ所程度あり、それぞれに野外炊事場が整えられています。また、夏期にはプールもあり、グランドやキャンプファイヤー場もありますので今回もこれらの利用を予定しています。詳細は未定ですが、ハンドクラフトや場内での冒険ラリー、周辺地域でのウォークラリーを楽しむことができます。
　このキャンプ場には、学生のボランティアによるキャンプカウンセラーがおり行事の内容によっては、子供たちと一緒に遊べるように待機してくれます。
　参加対象は、小学校3年生以上ですが、2年生以下の児童についても保護者と同伴で参加できます。
　夏休みの一日、テント生活を体験してみようではありませんか。
　たくさんの方の参加をお待ちしています。

わがまち 桂坂

モリアオガエル

河野知加子

　六月一日、衣更えの季節になって久しぶりに、子供たちと野鳥園へ行ってみました。すると園の西側にある小池のまわりの木の枝先に今年も、モリアオガエルの卵を見つけることができました。
　子供たちが、
「わあ、お母さんあるヨ。一つ、二つ、三つ……」
と、うれしそうな声が、ひびきました。大人たちも、ワクワクしながら近寄って見ました。
　去年は、野鳥園の入口の小川に出来ていましたが、今年は、産卵の時期に水がなかったからでしょうか。
　このモリアオガエルの卵は、純白の泡状の卵塊で、早朝、一匹のメスに数匹のオスがしがみつき、後足で泡をかきまぜて作るそうです。卵塊はソフトボール大の大きさに泡立て、その中に約五百個の卵を産みつけます。
　ここ野鳥園では、トチの木、カエデ、タニウツギの木の葉先に、計八個作っていました。（六月十五日現在）
　そして、およそ二十日ほどでふ化すると、内部から解け始め、オタマジャクシは、池の水中に落ち、約五十日目にモリアオガエルになって、陸に上がるようです。（小学館『学習百科図鑑』参照）
　私たちの桂坂には、野鳥をはじめ自然がいっぱいあり、子供も大人も楽しめることがたくさんあります。この環境が、いつまでも続きますようにと、願うばかりです。

純白の卵を産みつける
モリアオガエル
（『京都新聞』より）

文化

日文研　学術講演会
日時　七月一六日（火）
　　一四：〇〇～一六：三〇
場所　日文研ホール
挨拶　河合隼雄日文研所長
司会　光田和伸助教授
講演
Ⅰ「胸より胸に」
　―日本の恋の歌について―
　タチヤーナL．ソコロワ＝デリューシナ
　日文研来訪研究員
Ⅱ「歴史と物語」
　―『三国志』と『三国志演義』―
　井波律子日文研教授
受講料　無料
受講定員　五〇〇名
申込方法　葉書、又は電話
申込先
　御陵大枝山町三―二
　「日文研」庶務課
　☎３３５―２０１６

ふれあい会館　市民セミナー
夏休み
親子で体験　陶芸教室
日時　一日目　七月二四日
　　　二日目　八月　二日
　両日とも
　　午前一〇時～
　　　午後一時
講師　渡辺敏朗氏
対象　小・中学生と親
　子供だけはだめです。
定員　二十四名（先着順）
　〆切り七月一九日
受講料　二五〇〇円（2回分）
内容　マグカップ作り
　第1日　粘土成形、削り
　第2日　下絵付け、釉掛け
申込み・問合わせ先
　ふれあい会館事業部
　☎３３３―４６５３

「広報部」が新体制でスタートしました

自治連合会広報担当
木ノ下勝巳

　平成八年度の自治連合会は新たに東地区の「にれの木」「さくら」の両自治会を加え、十一自治会でスタートしました。
　今後、各地区の開発にともなって更に新規自治会の加入が続き、連合組織の拡がりと、活動の活発化が予想されます。
　そこで、本年度の総会において、広報部に専任の役員を置き、新体制で連合会活動の広報に当たることになりました。
　この広報部の任務は、
(1) 住環境の保全整備
(2) 各種団体との緊密化
という自治連合会の方針に沿って「単位自治会と連合自治会の広報連絡を主たる任務とし、広報紙『桂坂』の発行について協議・編集の事務に当たる」となっています。この趣旨に基づいて今年度は、各自治会から選出された各一名の広報委員が広報部のスタッフとして参画、活動する運びとなりました。
　昨年までは加藤さん（しらかば）と、山田さん（かえで）など事務局や、その他ご協力いただいた方々のご尽力で『桂坂』が発刊されてきましたが、新しいスタッフの加わった今年度は各々の役割分担も決め、より一層タイムリーな情報の提供に心がけ、幅広い、内容ある紙面をお届けできるのではないかと思います。
　広報『桂坂』は年一〇回程度の発行を目標にしていますが、何分にも素人集団のことですから、従来のスタッフの指導のもと、「各自が得意な仕事」を分担しながら、楽しい、和気あいあいの雰囲気の中で、チームワークよろしく紙面づくりに従事するつもりです。
　広報「桂坂」は皆さんの広報紙です。どうぞお気軽にご投稿ください。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
　それでは、広報編集部の新スタッフをご紹介します。六月末現在のものです。

広報・編集部
あかしあ　木ノ下　勝巳
しらかば　加藤　貞雄
つばき　河野　知加子
さつき　佐川　早苗
しらかば　小出　敏輝
あかしあ　伊藤　富久子
ぽぷら　野洲　寿子
ひいらぎ　黒澤　真知子
さくら　河除　葉子

　尚、「はなみずき」「けやき」「にれの木」「かえで」の各自治会は近日中に選出される予定です。